

令和7年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に生徒の伸びを見ることができる調査となっております。
平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。
- (4) 桶川市ホームページ内にて、桶川市の結果概要等が掲載されていますのでご覧ください。

URL: <https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html>

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

3 調査実施日

令和7年4月17日(木)

4 調査の内容

(国語、数学、英語) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校調査は、国語、数学、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。 ・理科については1人1台端末を使って問題配付され、解答をする。 	
	【中学校 国語・数学・理科 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

中学校

＜教科に関する調査＞

は全国平均正答率を上回ったもの



国語									
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	46.3	48.5	48.1	話すこと・聞くこと	4	54.2	54.3	53.2
情報の扱いに関する事項	0				書くこと	5	51.6	53.7	52.8
我が国の言語文化に関する事項	0				読むこと	3	60.0	63.6	62.3

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	51.7	45.0	43.5
図形	4	51.3	48.7	46.5
関数	3	49.4	48.8	48.2
データの活用	3	69.6	60.2	58.6

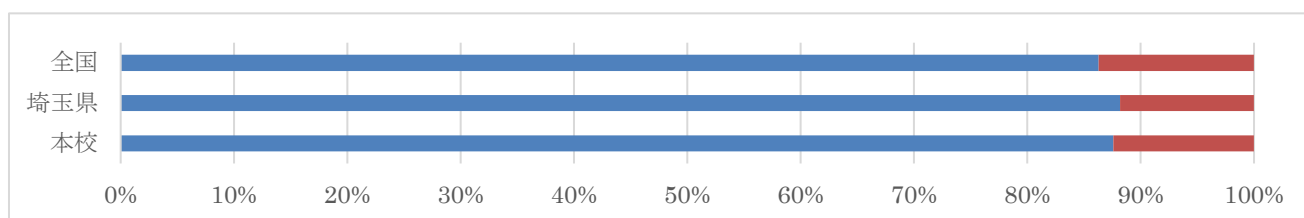
理科（公開されている問題のみについて）				
大問題	設問数	本校平均正答数	県平均正答数	全国平均正答数
【１】	6	3.1	2.9	2.9
【２】【９】	4	2.2	2.0	2.0
【５】【８】	4		1.9	1.9
【３】【６】	4		2.3	2.3
【４】【７】	4		2.3	2.3

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

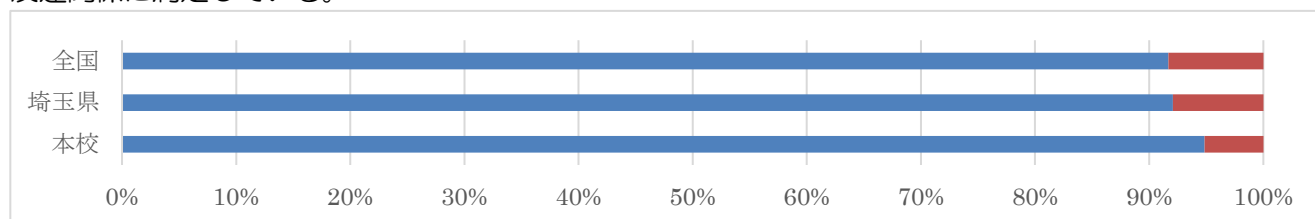
自分にはよいところがあると思う。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

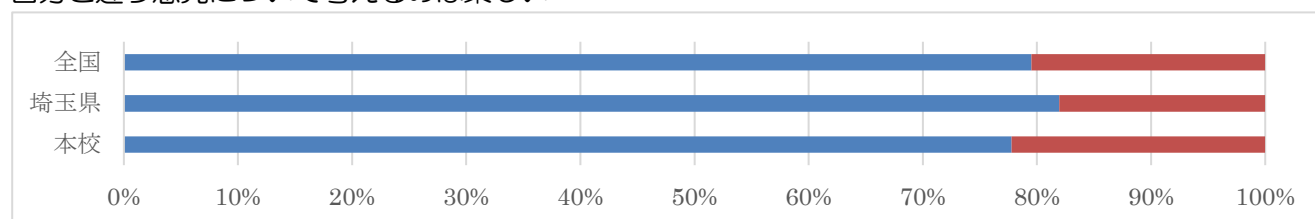
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



友達関係に満足している。



自分と違う意見について考えるのは楽しい



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【分析の概要】

「話すこと・聞くこと」の領域において全国平均正答率を上回った。

本校では、個別最適な学習と協働的な学習を研究課題として取り組んでいる。主体的・対話的で深い学びの実現を目指した成果もあり、他者に意見を伝えること、他者の意見を聞くことで全国平均正答率を上回ったと考えられる。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、授業で漢字の小テストを行ったり、文法の学習を丁寧に積み重ねたりしているが、まだまだ定着が図れていないので、粘り強く指導をしていく。

「書くこと」の領域では、全国正答率では下回っているものの、問題によっては大きく上回っているものもあった。机間指導の際に自信を持たせるような指導・支援を行い、自分の意見を書けるように指導をしていく。

「読むこと」の領域では、文の構成や内容の理解、筆者の考えや意図、登場人物の気持ちを読み取ってきたが、筆者の考えや登場人物の気持ちを読み取ることがまだまだ苦手な生徒が多いと考えられるので、改善を要する。

【問題（例）】

問題例

「しきりと」の意味として適切なものを選択する

正答 ウ

日頃からわからない語句を調べる時間を作り、語彙を増やしてきた結果、正答率で大きく上回った。

問題例

手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。

今まで行った作文指導や文法（敬語）の学習を丁寧にやってきた結果、正答率が大きく上回った。

【問題（例）】

問題例

変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）

正答 ウ

普段、使わない漢字に関して、前後の文から推測する力が不足している。

問題例

「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く

正答

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる

自分の考えを書く問いだが、こちらの問題は正答率で大きく下回った。無回答率は全国平均よりも下回ったが、問題の意図がわからずに答えを書いていた生徒が多い。

＜数 学＞

【分析の概要】

領域については全項目で県平均も全国平均も上回っている。普段の授業から ICT 活用をすることで演習時間を確保することができ、基本的な計算力や知識が身に付いたと考えられる。また、「データの活用」においては、県平均、全国平均を大幅に上回っている。ICT が活用しやすい分野での正答率が高く、ICT の活用が生徒の理解力向上につながったことがうかがえる。加えて、記述式の問題においても、ほぼ全ての問題で高い正答率を出している。普段から協働的な学びによって、自分の考えを他者へ伝えることや自分にはない考えを発見することにつながり、説明をする力が身に付いたと考えられる。一方、「関数」の領域に関しては、県平均や全国平均を少し上回る程度であった。問題によつての正答率の差が大きく、知識の定着にばらつきが見られることが今後の課題である。

【問題（例）】

問題 9

さらに、次の図 4 のように、辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE の交点を H とすると、四角形 AGCH も平行四辺形になります。

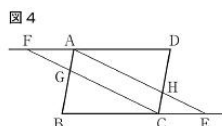


図 4 において、四角形 AGCH が平行四辺形になることは、2 組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形 FCEA が平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

正答例

平行四辺形 ABCD の向かい合う辺は平行であるから、

$$AB \parallel DC$$

よって、 $AG \parallel HC$ ……①

平行四辺形 FCEA の向かい合う辺は平行であるから、

$$FC \parallel AE$$

よって、 $GC \parallel AH$ ……②

①、②より、2 組の向かい合う辺がそれぞれ平行であるから、四角形 AGCH は平行四辺形である。

正答率 本校 38.5% 全国 33.2%

無回答率 本校 22.2% 全国 31.5%

＜分析＞

ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題である。

図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つことを証明したり、条件を変えて共通する性質を見いだすなど統合的・発展的に考察したりすることや、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見いだすことが大切である。本問題では、見いだした事柄について、平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件を用いて考察する場面を取り上げている。平行四辺形の知識が定着しており、かつ証明の意味を理解して問題に取り組んでいる生徒が多いと考えられる。

【問題（例）】

問題 8（2）

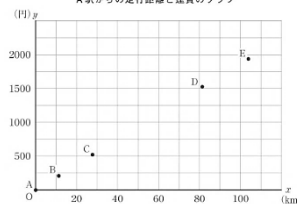
8 A 駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C 駅と D 駅の間にあるスタジアムによく行きます。

歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A 駅から新しい駅までの運賃がいくらになるのか気になりました。そこで、A 駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A 駅	B 駅	C 駅	D 駅	E 駅
A 駅からの走行距離 (km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A 駅からの運賃 (円)	0	210	510	1520	1930

A 駅からの走行距離と運賃のグラフ



(2)

A 駅から新しい駅までの運賃はおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。

正答例 点 A から点 E をもとに、直線のグラフをかき、x 座標が 60 のときの y 座標を読む。

正答率 本校 36.3% 全国 38.0%

無解答率 本校 38.5% 全国 35.0%

＜分析＞

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題である。

日常生活や社会の事象を考察する場面では、事象を理想化したり単純化したりすることによって、事象の中から取り出した二つの数量の関係を既習の関数とみなし、問題を解決することが求められる場合がある。その際、問題解決の方法を数学的に説明できることが大切である。比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現するためにも、普段から問題解決の方法を数学的に説明する機会を増やす必要がある。

＜理 科＞

【分析の概要】

領域別正答率については、全項目において県平均および全国平均を上回る良好な結果となった。個別項目の分析では、塩素の元素記号（Cl）を問う問題の正答率が高かった。このことから、2文字で構成される元素記号の表記規則（1文字目は大文字、2文字目は小文字）が正確に定着しており、「元素を記号で表すことに関する知識・技能」が十分に身に付いていると判断できる。

また、気圧に関する身近な事象を問う問題においても高い正答率が得られた。これは、単なる用語の暗記に留まらず、気圧の仕組みを概念として理解し、日常生活と関連付けて捉えられているといえる。

一方で、身の回りの事象から生じた疑問に基づき、解決のための課題を設定する問題には課題が見られた。今後は、観察・実験の結果を多角的に分析・解釈する力を養うとともに、それらを基に新たな予想や仮説を立て、見通しを持って探究を進めていく「科学的に探究するプロセス」の強化が求められる。

問題例「よくできた」

(2)
クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を1つ選ぼう。



正答

ストローを使って飲み物を吸い上げる

正答率 本校 79.6% 全国 58.2%

無回答率 本校 0.0% 全国 0.3%

問題はクリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する問題である。気圧に関する身近な事項を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみることが出題の趣旨である。日ごろから身近な事象に目を向けさせ、話し合い活動を通じて、疑問を解決させる活動を継続したことで正答率が上がった。

1 (5) 大文字、小文字を区別して、下線部（塩素）の元素記号を書きなさい。

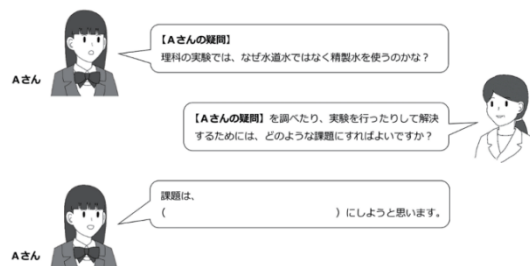
正答率 本校 63.5% 全国 44.9%

無回答率 本校 6.6% 全国 8.5%

問題は、塩素の記号を記述する問題である。塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみることが出題の趣旨である。元素記号に関する小テストを、繰り返し実施し、知識の定着を図ってきたことで、正答率が上がった。

問題例「よくできなかった」

課題を設定する



1 (2) [Aさんの疑問]を解決するために、()に適切な課題を書きなさい。

正答

(例)水道水と精製水の性質にはどのような違いがあるか。

正答率 本校 43.1% 全国 46.2%

無回答率 本校 9.5% 全国 8.0%

問題は「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する問題である。身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみることが出題の趣旨である。授業の中で、課題を設定させたり、生徒自身でその課題を見いださせたりする活動が、今後の課題である。また、問題の趣旨が分からなかった生徒もいたので、色々な問題に取り組みせながら、読み取る力を育てたい。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和7年5月8日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	64.0	65.3	13	62.5	60.4	11	52.6	55.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	65.1	67.4	7	44.4	43.8	8	63.9	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	4	56.4	59.3	4	64.1	65.0	4	51.9	53.0
読むこと	8	53.4	56.8	7	49.9	48.5	8	56.8	54.7
※学力の伸びた児童の割合		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑↑

数学	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	10	52.1	58.2	11	63.0	56.3	11	66.4	60.0
図形	10	49.0	52.0	8	51.5	42.2	8	52.5	49.7
1年変化と関係2, 3年関数	8	44.8	49.4	7	59.6	54.0	8	55.7	52.8
データの活用	5	42.6	43.9	7	57.3	52.1	6	75.5	64.9
※学力の伸びた児童の割合		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	74.4	73.6	10	51.4	55.8
読むこと	15	59.9	59.4	19	53.7	57.2
話すこと	2	22.4	18.5	2	10.3	12.5
書くこと	9	57.8	55.7	5	33.0	37.0
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

<生徒への質問紙調査>（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上（%）

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7 98.4	96.6 97.3	96.1 97.7
	② 授業の開始時刻	96.6 89.9	97.4 98.0	97.7 99.2
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.6 83.7	91.6 91.2	93.1 95.3
	④ 整理整頓	72.6 68.2	74.8 70.1	74.9 78.3
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んで挨拶や返事をする			
	⑤ あいさつ	88.1 82.9	88.1 87.8	87.5 93.8
	⑥ 返事	94.8 94.6	94.9 96.6	95.3 100.0
	4 ていねいな言葉づかいを身につける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	91.7 86.8	92.8 93.2	93.9 95.3
	⑧ やさしい言葉づかい	89.5 86.0	90.9 92.5	90.8 94.6
89.9○約束やきまりを守ることができる	5 学習の決まりを守る			
	⑨ 学習準備	92.8 89.9	93.6 93.9	94.3 96.9
	⑩ 話を聞き発表する	83.4 70.5	83.3 81.6	85.4 89.9
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	92.0 86.0	93.1 92.5	94.8 94.6
	⑫ 掃除・美化活動	87.7 82.9	88.0 87.1	89.2 84.5

本校の学力向上の取組

授業における取組例

★1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」のある学習活動の充実

- (1) 2人組や生活班、グループによる授業形態で取り組む学習があります。説明する場面では生徒同士の学び合いを取り入れ、説明し合います。
- (2) 選択問題の場面では、一人一人の興味関心に応じた学習課題に取り組み、仲間と解決策を考え、それを踏まえた上で自分の問題解決へのアプローチ方法について説明し、共有します。
- (3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行き来し、考え、説明し、伝え合う活動のある授業実践に学校全体で取り組みます。

★2 テストレポートの取組

- (1) 教科により、定期テスト後、テスト復習レポートを作成しています。問題に再度取り組んだり、自分自身で解説をしたりすることで理解を深めます。

■3 思考力・判断力・表現力を伸ばす課題設定

- (1) 生徒にとって必然性があり、生徒自身が表現したい場面に出会える学習課題や実践的な場面を設定し、生徒の主体性を引き出します。

授業以外の取組

★1 家庭学習の習慣化

- (1) タブレット端末は毎日家庭に持ち帰ることを基本とし、家庭学習に活用できるようにしています。
- (2) 定期テスト3週間前にテスト範囲を発表し、計画的に学習に取り組む習慣を身に付けています。

■2 生徒一人一人に合った学力向上に向けての取組

- (1) デジタルドリルを活用し、生徒が自分に合った内容や方法を選択して家庭学習に取り組むことができます。
- (2) 全国及び県学力学習状況調査結果を踏まえ、自分に力に合わせて取り組める自由課題を用意しています。

☆…成果を上げたと考えられる取組 ■…課題を解決するための取組

保護者・地域の皆様へ

本年度の埼玉県学力学習状況調査では、1学年の国語、2学年の数学、3学年の数学・英語で学力が伸びた生徒の割合が、全県の同割合を大きく上回り、多くの生徒が前年度より学力を伸ばすことができました。

本校では、令和6年度から3年間、『個別最適な学び』と『協働的な学び』のある学習指導をテーマに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践の研究に取り組んでいます。研究を通して引き続き生徒の学力および非認知能力の向上を目指します。

埼玉県学力学習状況調査の質問紙調査では、ほとんどの項目で80%以上の達成率が示され、規律ある態度を身に付けている状況がうかがえます。ただ、整理整頓については課題が多く、今後ともご家庭と連携しながら指導を進めていきたいと考えます。全国学力・学習状況調査では「毎日決まった時間に就寝する。」「スマホやPCの使い方について家の人と約束したことを守っている。」という質問に肯定的な回答をした生徒が全国、県に比較して多く、日々の生活を大切に過ごしていることがわかります。ご家庭のご協力に深く感謝申し上げます。

今後も家庭・地域との一層の連携を図り生徒一人一人の健やかな成長と学力向上に取り組んで参ります。

本校の学力向上プラン

(1) 本校の学習指導目標

「学力」の3つの要素から

- (1)「基礎的・基本的な知識や技能」：基礎的・基本的な学習内容を生徒に確実に身に付けさせる。
- (2)「思考力・判断力・表現力」：よく考え、豊かに表現できる力を育てる。

「学力」の育成のため、(1)「何ができるようになるか」(2)「何を学ぶか」(3)「どのように学ぶか」という3つの視点を持ち、質の高い理解を図るために生徒の主体的な活動の充実を図る。

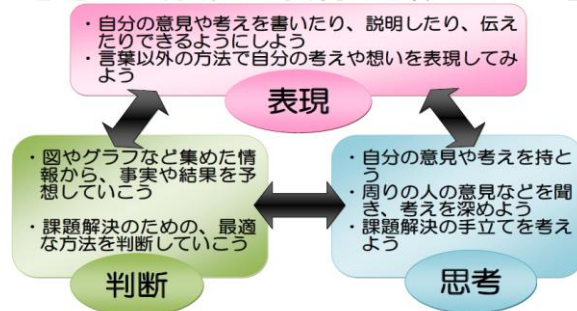
(2) 具体的な手立て

①「授業の約束（3つの行動）」

ア 生徒の思考・表現を可視化する言語活動を充実させた、意図的・計画的な学習を積み重ねることにより、思考力・判断力・表現力を育み、学力の向上を図る。

イ 「意見を聞いて比べ、深める」
「自分の意見や考えを発表する」
「協力して実習・実技や話し合いをする」などの活動を取り入れることで「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で授業改善を進める。

「思考力・判断力・表現力を伸ばそう！」



②「授業の約束（5つの心構え）」

ア 「授業の約束」を守り、きちんとした態度で授業を受ける。

イ 学習規律を定着させ、授業に向かう気持ちと姿勢を作る。

ウ 1時間の授業を大切にし、意欲的に授業に取り組む姿勢を育てる。

授業の5つの心構え

進んで学び、自らを向上させよう

- 一、2分前着席をしよう
- 二、大きな声であいさつをしよう
- 三、意欲的に取り組もう
- 四、自分の考えを表現しよう
- 五、準備をしてから休み時間にしよう

③学習指導

ア 互いに協力して学び合う学習集団を醸成する。

イ 教科部会の定期的な開催を軸に、指導と評価の一体化を図り、常に授業改善に努め、わかる喜びを味わわせる指導法の工夫・改善を図る。

ウ 定期テスト前の放課後を利用した補習授業を実施する。また、基礎・基本の確実な定着を図るため、長期休業後に確認テスト（国・数・理・社・英）を全学年ともに実施し、結果の活用を図る。

エ TT指導による授業展開で、個に応じた指導の充実を図る。

オ 家庭学習の習慣化を目指し、自主学習ノートを提出させ担任が指導・助言をする。

カ 校内研修の充実を図り、学力調査結果の分析を通して指導法と評価の工夫改善を図る。